

本書は、『茨城県立歴史館史料叢書 11 鹿島神宮文書 I』の続編です。「羽生大禰宜家文書」、「塙不二丸氏所蔵文書」、「護国院文書」が収録されています。

「羽生大禰宜家文書」は、大禰宜家の後裔である羽生家（行方市）が所蔵する史料群で、平成 12 年（2000）、当館に寄託されました。この史料は、茨城県史編纂事業の際は所在が不明でしたが、平成 8 年に麻生町史編纂事業の過程で所在が確認されたものです。

「塙不二丸氏所蔵文書」は鹿島社大禰宜家に伝来した文書群で、塙家（鹿嶋市）が所蔵しています。塙家は、鹿島社の枝家禰宜家の後裔です。同家が所蔵する文書約 500 点の中から、中世文書 99 点を収めました。

「護国院文書」は、護国院（鹿嶋市）所蔵文書 28 点のうちの中世文書 19 点です。年代の明らかな中世文書のうち、最も古いものは康永 2 年（1343）、最も新しいものが文明 15 年（1483）で文書集積の期間が短いことが特徴です。

本書は、『茨城県立歴史館史料叢書 11 鹿島神宮文書 I』の形式を踏襲していますが、カラーの図版を大幅に増やしました。図版写真では、接写による文書各部分の拡大写真や透過光撮影された写真を随所に掲載し、古文書学的な所見が得られるように工夫しました。花押や継紙の接着面などだけではなく、裏打ちによって隠された裏花押・端裏書なども、透過光を利用して撮影しています。